令和2年度　分掌チャレンジ　目標5　月

令和2年度				分　掌　名	教務部・生徒指導部・進路保健部・首席
学校経営計画				具体的な目標や方法〔数値目標があれば〕 （どのようなレベルまで、どのような方法で、いつまで、など）	
勉強がわかる喜びを伝える	「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり	生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。	生徒の学力に応じた教材を作成し、わかりやすい授業を行う。	目標：全教員が授業力向上に努めることで、生徒の授業参加率や単位修得率を向上させる。 方法：校内研修等を実施し、教科の枠を超えて、よりわかりやすい授業方法や効果的な教材作成について考え、教員相互が研鑽できる場を設ける。	
			ICTや視聴覚教材を用いた授業を数、質ともに充実させる。	目標：ICT機器を効果的に活用した授業を実施できる教員数を増やす。 方法：教科指導等において、ICT機器を効果的に活用できるよう、情報処理委員と連携し、ガイダンスの実施を行う。 　　また、教員間で効果的な活用事例を共有し、相互に研鑽できる場を設ける。	
			授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。	目標：教員間の授業見学機会・研究機会を増やす。 方法：授業見学週間を設けることで、教科の枠を超えて授業見学を行い、相互の授業力向上を図る。（年間2回実施予定）	
			授業において、図書室の利用を促進する。	目標：図書室の利用を促進する仕組みを考え、生徒が主体的に学ぶことのできる機会を提供する。 方法：他校や学校外の図書館での実践等に学び、授業における図書室利用の可能性を探る。適切な事例があれば、共有する場を設ける。	
		全教員で授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。昨年度に引き続き、授業中の携帯電話の指導を学校で統一して行う。		・授業中は「机上に不必要な物を置かない」「携帯電話等を使用しない」「集中して積極的に参加できる」という環境作りをめざす。 ・携帯指導等、授業規律に対する意識を教員間で再認識する機会を設ける。	
人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える	基本的な倫理観や規範意識を育てる。	教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通して指導する。		・人に認められ人と理解しあえる喜びを伝えられるように「総合的な探求・学習の時間」「HR」を利用し、人権や道徳の意識を高めさせる。・授業妨害等、人に迷惑をかける行為は教員間で同じ基準と意識を持って厳しく指導をする。 ・喫煙指導は未成年の喫煙行為だけでなく、成人の喫煙マナーの指導も行う。 ・学校教育自己診断（生徒）の「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率を3%向上させる。（R1：75%）	
	人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。	挨拶ができる生徒を育てる。		・生徒の登校時には門当番の教員だけでなく、1人でも多くの教員が門に立ち、積極的に挨拶と声かけを行い、生徒が自主的に挨拶をしやすい環境作りをめざす。 ・学校教育自己診断（生徒）の「自分は、あいさつをしている」の肯定率を5%向上させる。（R1：69%）	
		生徒会行事等を通して、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。		・生徒会が中心となり、生徒が主体的に様々な役割で参加、活躍できる行事をめざす。 ・学校教育自己診断（生徒）の「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率を3%向上させる。（R1：74%） ・行事の生徒参加率を体育祭、文化祭ともに50%以上を保つ。（R1 体育祭：58.5% 文化祭：58%）	
		各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。		・町内会、近隣中学校に対して、広報活動を活発化させ、地域の方々にとって「地域に開かれた魅力的な学校」をめざす。 ・各学年と連携し、懇談や案内文等を利用して、保護者や地域の方々の各種行事への参加を促す。	
		ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。		・清掃ボランティアへの参加を積極的に生徒に促し、ボランティア意識を高めさせる。 ・部活動加入率を3%増加させ、部活動を活発化し、生徒が活躍できる環境作りをめざす。（R1：35%）	
	生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を最大限大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。			・生徒に対し傾聴し、理解することで生徒との関係を構築する。 ・教員間で連携を取ったうえで、家庭とも密に連絡を取り、学校と家庭との意思疎通を図る。 ・学校教育自己診断（生徒）の「先生の指導については理解できる」の肯定率を3%向上させる。（R1：75%） ・学校教育自己診断（保護者）の「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が85%を下回らないようにする。 （R1：85%）	
	フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。			(A)本校の在り方についての検討 　首席を中心に各分掌長らと1年間かけて検討する。 (B)支援を必要とする生徒への取組み ⇒生徒支援の具体的な方策の明示 ①様々な課題や背景を持つ生徒の支援のため、個人カルテの作成を始動させる。 ②要支援生徒に対して個別の教育支援計画・指導計画を作成する。 ③ケース会議を行った生徒のアセスメントと支援目標を整理し、指導記録を作成する。 ④スクールソーシャルワーカーを活用し、担任と連携して要保護児童に対しての継続した見守りを行う。 ⑤障がいのある生徒の就職を保障するため、障がい者就労支援センターや精神科医院、ハローワーク等との連携を行う。 ⑥夜間介助員や学習支援員の配置・調整を行い、有効に活用できる体制を整える。 ⑦コグトレ等の認知能力改善プログラムを研究し、生徒の学習意欲や能力を向上させる取組みを開始する。 (C)中途退学や長期欠席を予防する為の家庭との連携 ⇒各生徒の様子を学校全体で感じ取りながら、欠席が続く等、変調があれば、担任を中心に家庭と連絡を密に取る。 　教育相談委員会でも生徒情報を共有し、生徒への働きかけにつなげる。 (D)職員研修 ⇒生徒理解をテーマに、教職員研修を実施する。 (E)上記の取り組みにより、令和2年度末の中途退学率を11．1パーセントとする。	
夢や志を抱く喜びを伝える	進路指導の充実を図る。	進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。		・予約奨学金の生徒・保護者向けに案内文の郵送やHP掲載、メール等で必要な情報を周知する。 ・奨学金（予約、在学中）の募集案内をホームページに掲載する。 ・進路の手引きを更新し1年生に配布。進路ガイダンス等で活用する。 ・在校生向けにアルバイト情報を20件以上紹介する。	
		進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。		・各学年の進路指導目標に対応した進路ガイダンスを実施する。 ・進路ガイダンス、進路ホームルームを通じて、系統的な進路指導となるよう計画的に立案・実施する。 ・外部講師などを多く活用し、様々な人の話を聞く機会を設定する。 ・卒業学年生徒に対しては、全体指導に限らず、個々の希望に応じた個別指導の機会を多く設ける。	
		就業体験をする生徒を増やす。		・1年次で、アルバイトについて聞いたり考える機会を設ける（先生インタビュー、進路ホームルーム）。 ・就業希望者には面談ときめ細かい事前指導（面接練習、履歴書指導）を行い、採用につながるようサポートする。 ・在学中のアルバイト採用や正社員採用を目標とした求人開拓を行う。 ・1月時点の就業率を5月よりあげる。	
組織の活性化と人材育成	校内組織の活性化	首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む		・新着任者（経験年数の少ない教員も含む）対象の座談会を、首席を交え、年に2回行う。 ・業務の負担にならないことに配慮し、コンパクトな教員研修を行う。	
	職務の効率化の取組み	時間外勤務を軽減させ、自身の健康について管理する。		勤務時間内に業務を終わらせる意識を持ち、作業効率を高めるよう各々が努め、年間の時間外勤務を360h以内とする。	
		コンプライアンスについて意識を高め徹底する。		職員会議で周知徹底するなど、コンプライアンスについて意識が高まるような取り組みを首席を中心に年に1回以上行う。	
		危機管理意識・防災教育や保健・安全・衛生管理意識を高め、校内の体制づくりを取組む。		首席を中心に関係部署で現行のマニュアル等を見直し、必要に応じて加筆・修正し、未作成のものは作成し全体に周知する。	

令和2年度　分掌チャレンジ　目標5　月

令和2年度	分　掌　名	教務部・生徒指導部・進路保健部・首席
学校経営計画	具体的な目標や方法〔数値目標があれば〕 （どのようなレベルまで、どのような方法で、いつまで、など）	